

# 京橋の印刷

8月15日1981・No. 38

発行所

東京都印刷工業組合京橋支部

〒104 東京都中央区新富1-16-8

日本印刷会館3F 電話 552-1855

印刷所 八千代印刷株式会社

編集 田島 弘



## 目次

△表紙▽日刊スポーツ社のCTS方式	
巻頭一言……………田島副支部長	1
製紙不況カルテル対策と	
工業組合の運動について……………	2
▽新聞の新しい製作技術―CTS方式	5
△需要開発に関する研修会▽	
印刷業の勝ち残り作戦……………	9
ドルップ研修旅行結団式開催……………	13
中央区・工団連一泊研修会……………	14
△地区だより▽	
新富地区・研修会Ⅱ総会……………	16
新川地区・朝日新聞社見学記……………	19
ブームを追って―民謡(2)……………	17
第18回軽印刷展・水野プリンティング・	
コレクションライブラリー・支部の動き	
編集後記……………	20

## 巻頭一言

八月七日立秋——例年ならばまだまだ暑さも厳しく、凌ぎにくい真夏日も多いのだが今年には秋立つと同時に涼気が張りだし、関東近辺では夜明けに寒さを感じるほどだが、甲子園では高校野球の熱戦が連日つづき、テレビ観戦して郷土を応援し、いまや国民的行事となった真夏の球宴も報徳学園の優勝で幕を閉じた。旧盆の大移動もまずまず終り、いよいよ九月も間近い。重陽の九日には二、〇〇〇人を動員して総決起大会が開催され、適正料金の貫徹、社会的地位向上の達成をスローガンに、百日紅の咲き乱れ中を街頭デモ行進して氣勢を上げるが、枝をためて良花を咲かせるこの木のように、組合行政にも思い切った施策が望まれるのではなからうか。

# 製紙不況カルテル対策と

## 工業組合の運動について

支 部 長 石 曾 根 啓 悦

六月二七日（土）緑濃い箱根湯本に一泊、組合運営の円滑化のため本部役員と支部長とが膝突き合せて忌憚のない意見交換と情報交流のため東印工組常任役員・支部長連絡会議が開催されました。会議は定刻の一時三〇分を過ぎてから織田支部長会議長の司会で、

- 一、当面の資材対策について
  - 二、構造改善事業の推進について
  - 三、料金適正総決起大会の開催について
  - 四、組織拡充の推進について
  - 五、各委員会事業等の推進
- の議題に基づき五時間余にわたって熱心な討議がおこなわれた。

はじめに会議レジュメに従って、当面の資材対策の（一）印刷用紙を資材担当の常務理事が製紙不況カルテル認可後の経過情勢報告に入った。同常務理事は冒頭、——京橋の石曾根支部長、あなたは今日の会議に車（途中所用のため自動車）で

来られました、皆さんと一緒に電車でしたら、車中で話ができたのですが、六月二三日の洋紙同業会（卸商）との懇談のなかで、一部の東印工組支部で文書が出ているが、内部で調整してほしい。と京橋支部発行の文書を紙商側から示めされた。「上級紙、コート紙の不況カルテル認可に対する印刷組合の体制」の文書である。現在は用紙価格等について製紙側と交渉中（製紙メーカー、代理店、卸商のそれぞれの代表）である。

このような文書を出す場合は本部の許可をうけてほしい。また、内容も「製紙業界の在庫調整が、紙かくしや、価格つり上げに至らぬよう監視体制の確立……」。八月三一日まで一切の値上げに応じないように」とあるが、紙かくしの表現は事実に対し不穏当である。また、八月三一日まで値上げに応じないと云う期限についても、何時、何処で、誰が決めたのか。

か。

と激しい口調で追及をされました。さらに全印工連資材対策担当役員も、この文書に対し次のように  
——このような文書を出されたことは、はつきり申し上げて、交渉がやりにくい——と明言されました。

こうした見解は東印工組本部の統一したものか、或るいは一部役員の見解なのかは定かでないが、その追及については京橋支部が、この文書を出した経緯と真意を明確にすること、同時に今回の文書事件を発端に印刷工業組合の民主的運営と今後の工業組合の運動論を若干掘り下げて、工業組合の発展と団結のために組合員諸賢のご指導とご意見を請うものであります。

### 製紙下況カルテルの

#### 文書発行の経緯

六月三日の本年度第二回支部長会に〔支部提案事項〕の三、製紙メーカー申請の不況カルテルに伴う価格値上り防止策について（京橋支部）へ製紙業界の紙かくしと値上げに対する監視体制の確立と抗議を提案、その主旨説明として

——総代会で製紙不況カルテルの申請とその情勢について専務理事より報告の通りカルテル認可と、その後の紙価格の値上げは予想されていたにも拘わらず、認可の五月二〇日より日時が大部経過して

いるが、情報が私どもには全く無く流れてこない、このような緊急事態の場合は即刻対策を打ち出し、紙価格の値上げ通告の情報の収集、製紙メーカーへの抗議など、組合員が全員参加の組合の運動として行動を起せるような対策と体制をとってほしい——と補足をおこないました。

続いて専務理事の情勢報告がおこなわれました。

——報告と云うより支部長さん皆さんのご意見を頂戴したい——。と要請された後、カルテル認可の経過、その後の製紙メーカー、代理店を通して卸商の値上げ攻勢の全国的な動き、全印工連各県工組からの抗議と情報が伝えられた。次いで支部長全員の各地域の情報と意見が述べられ、支部長会全体の意志統一として、殿りの江東支部長が、——四九年のオイルショックのようにならないよう全体で値上げを認めない——と締め括りの提案がなされ、織田議長が、——この意見を本部資材対策委員会に反映してほしい——。と出席の本部三役に要請した。以上が印刷用紙に関する支部長会の結論でありました。

私どもを取り巻く製紙側の動向は、不況カルテル認可の五月二〇日から卸商は三〇円から三五円の値上げ攻勢をかけてきている環境であります。こうしたなかで工業組合では製紙側代表との懇談を数次にわたり、精力的に続けられ大変ご

京 支 第 5607号  
昭和56年5月21日

組 合 員 各 位

東京都印刷工業組合 京橋支部  
支 部 長 石 曾 根 啓 悦

上級紙、コーテッド紙の不況カルテル認可に対する印刷組合の体制

謹啓 平素は組合運営に当たり格別のご協力を賜わり誠に有難く、厚く御礼申し上げます。第2次オイルショックを契機に、政府主導型の省エネルギー・省資源対策も3年目をむかえ国民の間に定着し、加えて昨年の物価上昇に伴う賃金の目減りなどによる、個人消費の低迷が景気を後退させています。こうした経済下のもとで印刷用紙の需給は、昨年来の仮需の反動と用紙の軽量化などの構造的な変化にともない、特に景気のかげりから上級紙、コーテッド紙の需要が伸びなやみ、在庫が大幅に増加した結果、一部製紙メーカーの倒産と経営不振を招き、製紙業界の体質を浮きぼりにしています。

製紙業界では、このような事態に対処するため上級紙13社、コーテッド紙11社がカルテルに参加し、独禁法に基づく不況カルテルの申請に踏み切りました。公正取引委員会は、この申請を通産大臣と協議のうえ、5月21日付で認可を決定しました。これにより製紙業界は8月31日までの認可期間の減産体制に移り、在庫調整をおこなうことになりました。

この不況カルテルは製紙業界の内部問題であり、印刷工業組合としては用紙価格の安定化と流通における安定供給が守られることが原則的な同意事項であり、この度の製紙業界の在庫調整が、第1次オイルショック当時のような、紙かくしや、価格のつり上げがおこなわれる事態に至らぬよう監視体制を確立し、そのような動きに対しては、印刷業界をあげて情報を集約し、カルテル反対の立場と製紙業界への抗議体制を整え、製紙原価と体質の改善を要求するものであります。

組合員各位におかれては、当面は認可期間の8月31日までは価格のつり上げには一切応じることなく、次の要領で情報の集約にご協力をお願い申し上げます。

記

5月20日上級紙、コーテッド紙の不況カルテルの認可にともない、一部洋紙店から早くも値上げ(前年3月期価格への値戻しと称し)が通告されています。また、注文した名柄が無いなどの事態がおきています。情報を提供してください。

<用紙情報の報告>

- ☆製紙メーカー
- ☆販売店名
- ☆用紙名柄
- ☆現 kg 単価
- ☆値上げ幅
- ☆またはkg単価

地 区  
社 名

製紙不況カルテル対策の京橋支部発行の問題の文書

そこで指摘された文書の内容で「紙かくし」と云う表現に大変きつい達しと受けとれるのでありますが、この紙かくしについては支部長会において各支部長からも、その事実が確認をされていますこと、本部が六月一日に理事以上に速達で郵送された「製紙カルテルに関する経過」第一報のうち資料No.6、井上計常任顧問の抗議内容でも触れられている通りであり、その後の第二報の経過(その2)の報告書でも六月一五日の通産省の事情聴取・懇談のなかで(印刷)現在までの経過を説明した後、〇九州では品薄の声もある。と云う発言の通りで、過剰生産のために在庫調整で不況カルテルを結成している業界に、品薄だの、注文した製品が無いなど、しかも価格値上げ通告と合わせて、そのような現象が起きるとは、不思議であり許すことのできる事柄ではないのであります。しかし、このような事態に立ち至った責任は、私ども印刷業界にも全く無かったとは云い切れぬ

苦勞のことであります。その努力は高く評価され敬意を表するものであります。しかし、相手側は今日も執拗にに値上げ通告を各地でおこなってきているのが、交渉中のルールとして双方が交渉結果が出るまでは攻撃をしないと云う協定が結ばれているものとならば「このような相手を刺激する文書を出しては困る。」との指摘も納得がゆくのですが、そのよ

うな約束もなく、しかも相手側は一斉攻撃を仕掛けています。紙価格の値上げに対しては私ども印刷業は常に守りの戦いであって、戦いの基本である戦略も戦術も与えられずに、相手の攻撃にさらされ各個撃破(値上げを認める)されるのを手を拱いていて良いのでしょうか、そのうえ六月三日の支部長会での支部提案事項については、今日

に至るも何等の結論も対策も出されていないのであります。斯かる状況のもとでは、支部の責任において工業組合の結束と組合員を製紙側の紙の値上り攻撃から守る防波堤的な役割として、また組合員一人ひとりが情報を組合本部に提供することで組合の運動に参加し、連帯の意識をたかめることができるならば。東京都の一地域、一支部

紙かくし、価格つり上げ

原価公表まで値上げ反対

のゲリラ戦のような戦いでも、組織の支えとなることを確信し、さらに本部の製紙側との交渉をバックアップする武器として下部の声を反映して頂くことが、京橋支部の製紙不況カルテル対策として文書発行の経緯と真意であります。

ものがあります。過去の価格問題では総べて製紙側の云い成りで、ただ中小より大手を先などの交渉で少し先き送りをしただけで、結果的には中小印刷業の犠牲が大きかったようであったし、価格転嫁はできずに印刷の企業努力と合理化で吸収するか、泣きねいりであったのが実状でありました。それにひきかえ一昨年から昨年へと数次の値上げで製紙業界の儲けは大きく、昨年のボーナスは史上最高とも云われています。製紙側のこのような夢よもう一度の幻想を打ち砕くためにも、第一次オイルショックの轍を踏まぬよう監視体制をとるべきであります。

次に文書のなかで「認可期間の八月三一日までは価格のつり上げには一切応じることなく」についてありますが、六月三日の専務理事の不況カルテルに関する報告のなかで「いま、たっぷり在庫があり二カ月分はあると云われているので、すから、もうなん月分から値上げと云うのはおかしい話です、五月二、一日から二カ月たった後、需要に見合う生産体制になった時点で、原価を公表して、そして一五円なり二〇円の値上げは勘弁してくれ」と云う要請の仕方を、むこうが為るべきだろうと私は考えます。——その新聞広告について不況カルテルと価格とは関係ありません。最悪の場合一〇円なり一五円なり結果的に上ってしまったとするならば、メーカー側がエンドユーザーへ詫びることは当然ですね。」と述べられ

ています。

このような支部長会での専務理事の報告を、どのように理解してよいのでしょうか、私も下部組織のものは上部機関の招集した会議で報告された事項を本部役員の一部の私見などと受けとれるものではなく、何時、何処で、誰が決めたのかと指摘されたことは、そのまま本部にお返し申し上げます。本部こそ意志統一をして頂きたいものであります。

### 印刷工業組合の運動と 魅力ある組織の運営を

印刷工業組合の運動と運営は、組合定款に基づくことは当然であります。当面の問題については、年度事業計画の基本方針によることは申すまでもないのではありませんが、しかし、その運用は人がおこなうものであり、運用に当っては一定の基準が設けられ、具体的な運動の指導と事業の運営がおこなわれ、諸問題の処理解決がなされるものと考えます。

今日の文書問題には、その運用と基準が問題化したのだと思えますが、運用は人によって違うことは有ると思えますが組織として機関(常任会)の統一した見解が示めされることを望みます。それでは今日まで運用や基準について、また、組合の運動のあり方の意見交換、議論がおこなわれたことが無かったように思えますので触れてみます。

二年毎の印刷工業組合の役員改選の度に、組合事業の推進に当ってその施策が組織の末端にまで浸透しないと……。

とか、組合員の声を汲み上げて組合事業に反映を……など上意下達だの下意识など論議を呼びそうな意向が伝わってきますが、一向に中心的な討議にされずにはいます。このところ数年の組合の事業計画の基本方針に、組織強化が必ず幾つかの柱の一つとして取り上げられていますが、昨年度の報告をみても組織活動特別委員会は一定の活動をおこなっていますが、組合としての組織強化の具体的な行動としては行財政改革推進決起大会への日本印刷産業団体協議会の一員としての参加で、当組合から二〇三名が動員されていますが、この大会の目的や開催の主旨が全組合員に理解がされ代表が参加をしたのでしょうか、否参加の二〇〇名にも理解が行届いていたか、どうかの疑問が残ります。では本年九月九日には危機突破・料金適正貫徹総決起大会が当組合の主催でおこなわれます。大会の動員規模は二、〇〇〇名ですが、組合員の理解と盛り上がり、当面の組合の運動として評価を問われるもので、具体的な組織強化は、どうあるべきかについては、この大会の終了後に評価されることとして、当面は全力を傾注して取り組むばと考えています。ここ数年の組織強化活動は、年毎に遞減する組合員を組合財政の上からも新規組合員の加入運動がな

されているますが、近年漸くにて組合では人材養生の一環として経営者研修が取り上げられて、或る観点からは質的な向上がなされようとしています。組織強化を目指した質的な向上に伴う印刷工業組合が魅力ある組織への転換がおこなわれてはいないと思えます。

### 民主的運動の進め方

文書問題を通して意見を出して来ましたが、私としては最も重要な点が最後になつてしまつたのであります。紙価格のつり上げには八月三一日までは一切応じない、ことについては何時、何処で、誰が決めたのかと云わせた組合の体質にあると思えます。では六月三日の支部長会には資材担当役員は欠席をされていたのですが、理事長をはじめ三役は一名を除き臨席され専務理事の報告事項についても疑義は出しておらず、しかも六月二七日になつてからそのことが問題になり、それが資材担当役員からの文書に対する指摘がなされても、他の役員からはその点について一言も触れられることなく、そして六月三日の支部長会での提案事項に何の答も返えない一方通行であつたことでもあります。誌面の都合と愚見の纏まりのなさに、云い尽くせぬもお許し願ひ意のあるところをご判読ください。さらに統いて問題の提起と皆さんからのご意見は次回にいたします。

# 新聞の新しい製作技術

# CTS方式

日刊スポーツ新聞社 新聞製作システム開発委員会事務局マネージャー 永田厚生

CTSとは、活字から刷版・印刷に至る新聞製作の全工程を通じて鉛と熱をいっさい使わない全く新しい製作技術で、従来の方法、HOTと対比的に名づけられたものです。コールド・タイプ・システム(脱鉛脱熱方式)あるいはコンピュータライズド・タイプセッティング・システム(電算写植方式)の頭文字をとって命名されました。

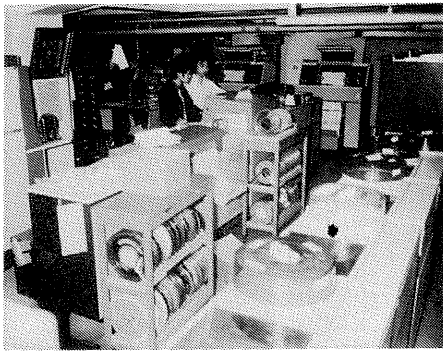
日刊スポーツでは四七年四月に案内広告のCTS化を皮切りに、編集紙面の製作をCTSに切り替えてきました。現在はニュース面はHOTですが全面CTS化が五七年七月に本番稼動します。

同システムの横顔を紹介します。原稿入力から写植出力まで、新聞製作CTSシステムは大きく分類するとホストコンピュータシステムと入力棒組、訂正、組版、出力の4サブシステムになります。ほかに大阪日刊との集配信システムとM345という小型テレビからの割付

入力システムと野球入力システムがあります。

## ①ホストコンピュータ

文字どおりN3の中核をなすシステムで「入力・訂正・組版」のプロセス及びファイル管理を担当する。またすべてのサブシステムとはチャネルまたは通信回

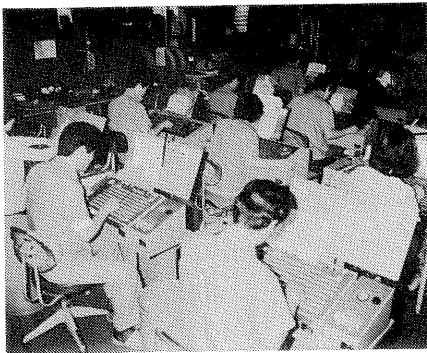


NEPSコンピュータ室

線で接続され、それらへのデータの出入力を通じて、記事の入力から写植出力までの全工程を効率的に進行することが要求されるわけで、機種はマルチプロセッサ、UNIXVAC1100-62(通称バンガードといい「先駆者」という意味)です。別表①のCTS作業の流れを追ってみましょう。

## ①入力・棒組システム

まず原稿(文字)をキーボードで紙テープにさん孔します。活版ではこの紙テープを自動鑄植機にかけて活字を打ち出



入力室キーボード

しますが、CTSではコンピュータに読み込ませ記憶装置に蓄積しておきます。と同時に表の右の小ゲラを出力します。校正するため静電記録紙にプリントしたものです。原稿には一件ごとに必ず原稿指示伝票を添付しなければなりません。

## 京橋製本協同組合

理事長	牧野	佐武朗
副理事長	豊田	政國
〃	松谷	慶四郎
専務理事	村松	敏一

## 雑誌合本 文献製本

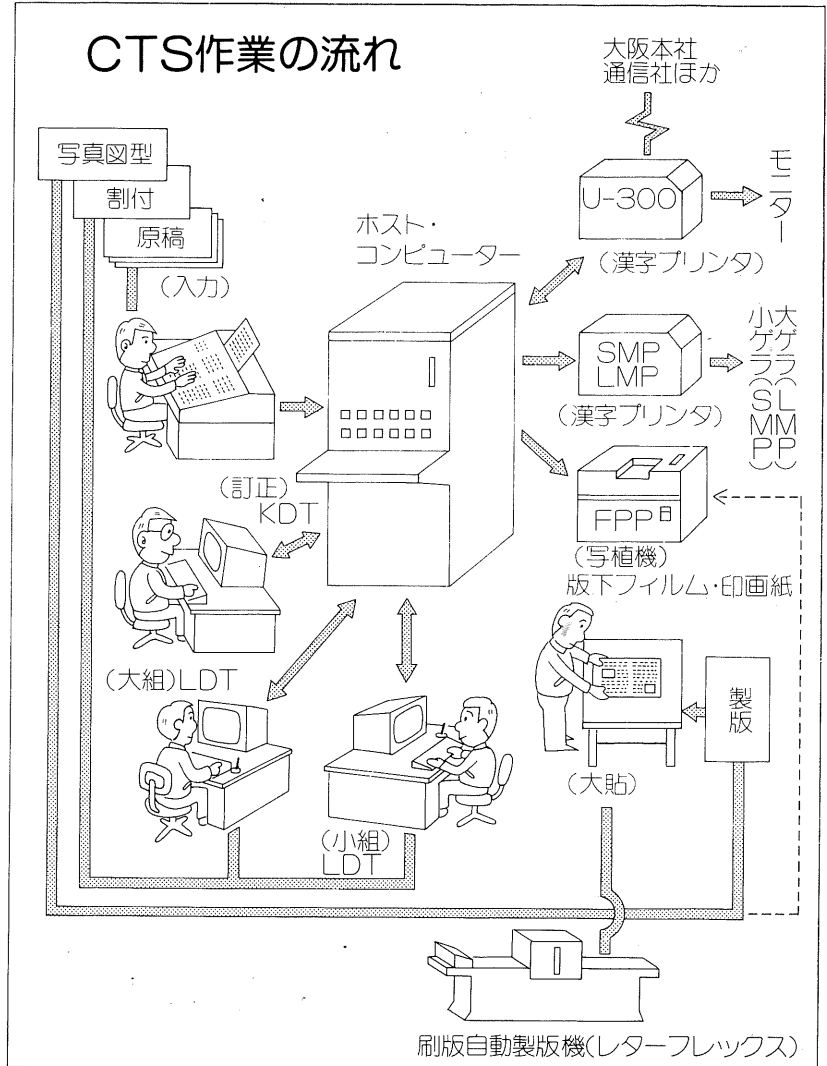
毎週木曜日貴地区を巡回致します

東京都製本工業組合・図書館製本部会員

## (有)染野製本所

市川市八幡4-18-27  
Tel-0473(34)3824

ん。それには記事、見出し、前文、エト  
 キの区分のほかに一行の字詰、行間、  
 仮見出し、コード、文字サイズなどを指  
 示します。記事を呼び出すためには、コ  
 ード(番号)が必要ですが、出稿時に自  
 分で付けてもよいし、付けなければホス  
 トコンピュータで自動的コードを割り  
 ふります。



### ② 訂正システム (KDT)

KDTとは漢字ディスプレイターミナ  
 ルの略称です。(ゼネラル製品)赤字の入  
 った小ゲラには先程説明したコード(番  
 号)がプリントされていますので、それ  
 を入力してテレビに呼び出し、文字訂正

を行なう作業で  
 す。訂正、削除  
 移動、追加が自  
 由に出来ます。  
 小ゲラが欲しけ  
 ればその出力指  
 示をします。テ  
 レビとホストコ  
 ンピューターの  
 間には図にあり  
 ませんが、ミニ  
 コンピューター  
 が介在します。

### ③ 組版シ ステム (LDT)

LDTとはレ  
 イアウトデイス  
 プレイターミナ  
 ルの略称です。  
 コンピューター  
 で組み上げたの  
 が次頁上段の写真です。20インチのブラ  
 ウン管の画面に見出し、記事、写真スベ  
 ースなどのレイアウト状態がこのように  
 線で表示される。コンピューターに命令  
 を与えて処理結果を確認するためにLDT  
 Tを使う。LDTはテレビにタイプライ  
 ターを取り付けたような端末装置です。  
 「この見出しをトップに置け」「この

プロセスインキの最高峰

New Champion

Super Apex



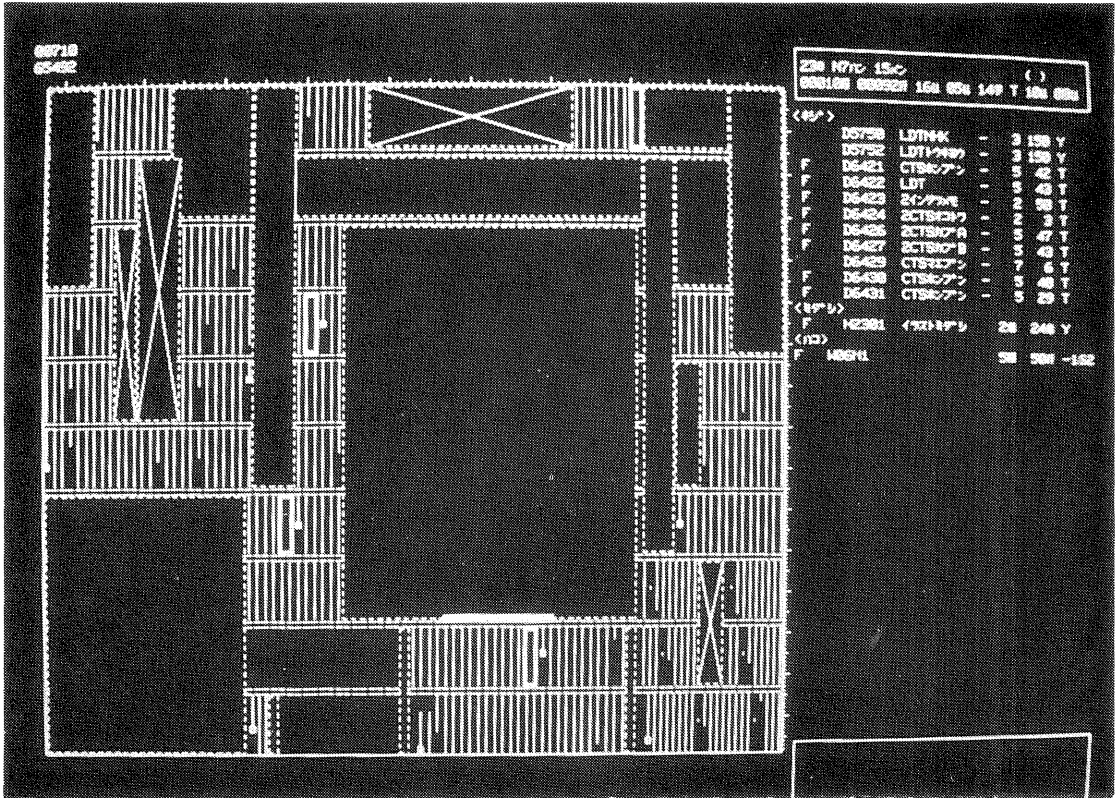
大日本インキ化学

山 桜 製 品



株式会社 山 桜

本社 東京都中央区築地3-2-9  
 電話 542-8511 (大代)  
 工場 東京都昭島市大神町1046番地  
 支店 神田・中野・五反田・浅草・板橋・亀有  
 墨田・蒲田・横浜・千葉・大阪



LDTのブラウン管上にうつし出された画面—写真, カット, 見出し類は空間, ×印で示され, 文章は線で出されている

記事をどこから流せ」といった命令を所定のキーをたたいて送る。コンピュータに記憶させてあるプログラムが働いてその結果がブラウン管の画面に表示される仕組み。流した記事量が多くてページ内に収まり切らなかつたり、配置したものが大き過ぎて重なつたりすると「×行アフレ」「天地××、左右○○カサナリ」といったメッセージが返ってくる。人間を相手に、会話を交わしながら作業をしているような感覚で操作することが出来ます。

LDTには漢字キーボードも付いています。



**加工**

業界の  
トップレベルを行く

**宏和樹脂工業株式会社**  
東京都板橋区蓮沼町51-2  
TEL 965-2711 代表

生活には  
くらし  
はずみを

無担保・無保証人  
**文信フリーローン**

上手な住居づくりに  
**文信マイホームローン**

文化産業信用組合 | 京橋支店  
東京都中央区八丁堀4-13-1 ☎551-9625(代) 104



出力TEM室

て、赤字訂正はもとより、飛び込みニースや見出しの緊急入力もこれを使えばその場でOK。入力した文字はブラウン管に漢字で表示され、誤字、脱字の訂正も簡単に出来るから正しい原稿をコンピュータに送り込めます。

一ページすべて組む大組のほかに、部分を組み小組も同じように組み上げます。大組を組み上げた後、フィルムまたグラ出力指示を行ないます。

### ④ 出力システム

出力指示は、原稿上、KDT、LDTからなされます。入力されたデータを紙またはフィルム(印画紙も可)上への印書出力を担当するものです。小グラ、大グラ、版下(フィルム)など、さまざま

な出力データをそれぞれのプリンターに自動的に振り分けれます。機械は日本電気漢字システム(特製品)です。

出力可能な文字の大きさは4U(ルビ)から64U(8倍)まで可能で、正方向のほか各種の長平体文字を作ったり、文字の向きを右倒し、左倒し、逆倒しの四方向に変えることも出来ます。文字数は明朝体6700字、呉竹5000字を収容しています。

### ① 小刷りプリンター

(SMP)

いわゆる小刷グラのプリンターで紙幅は11インチ、プリントするデータの大きさにより出力制御装置で振り分けられます。印字スピードは1インチ/1秒。文字はドットで表現され、ドット密度は200ドット/1インチですから、1倍文字はタテ18ヨコ22ドットとなります。用紙は静電記録紙(11インチ×150メートル)のロール紙です。SMPはスモールモニタープリンターの略。

### ② 大刷りプリンター

(LMP)

用紙幅22インチ、ブランケット判全紙はもとより、タプロイド判見開き(11段124行)までのいわゆる大刷グラを出力します。LMPはラージモニタープリンターの略。

### ③ フルページプリンター

(FPP)

レーザー光線によって高速印字する画期的なもので、新聞1ページ大のプリントが出来、組寸・刷寸サイズ、ポジ・ネガ及び正像・逆像、フィルム・印画紙の切替えができるなどすべて自動化で将来(58年目標)写真、図形も同時にプリントされるなど、CTSの多様なニーズに対応する機能を備えています。

### ☆ 大貼りシステム

FPPで出力されたポジフィルムと製版からの写真、図形ポジフィルムを貼り合わせ、ネガに反転します。

### ☆ 刷版自動製版機

W・Rグレース社のレターフレックスで感光性樹脂版を作成し、直接輪転機にかけ印刷されるわけです。

### 「京橋の印刷」

#### 十月号原稿募集

組合員の皆さんの機関誌として、皆さんに親しまれ、皆さんの手で育てていく為に家族や従業員からも原稿を募集します。奮ってご応募ください。

締切 九月二〇日  
宛先 東京都中央区新富一―一六―八  
(日本印刷会館三階)

注意 東京都印刷工業組合京橋支部  
「京橋の印刷」と朱書してください。

日本を代表するインキ

TOYO KING  
**ULTRA70**



**東洋インキ**

和・欧文 活字  
材料 / テープ・メタルベース 他  
インキ / 阪田 大日本 東京 東洋 各

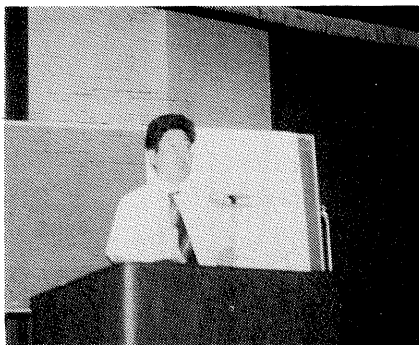
和・欧文 各パンフレットあります



株式会社 **京橋岩田母型**

551 - 1380・2830・(店頭)2827





### 昭和56年度構造改善事業 需要開発に関する研修会

## 印刷業の勝ち残り作戦

日本プリンティングアカデミー  
主任教授 高畑 伝

印刷業は今まで通りの受注を続けていけば仕事はあるのではないか、それは確かだ。急になくなるはずはないわけです。でも何となく不安であると思う方、どうしてこんなに騒がなくてはいけないんだろう。またどのように考えたらよいか、わからない方もおられると思います。これからの世の中を予告するのは、むずか

しいことです。

酒屋さんやお米屋さんには御用聞きをして回って注文をもらっておれば安泰していました。ある時、どうしたのか注文をくれないので、調べてみますと、駅の前にはセブイレブンが出来て本当にほしい物が手に入る、そのついでにお米やお酒も買うというようになってしまったわけです。

セブイレブンは売れる物売れる物を確実に品揃えをしています。そしてその日の内に計算をします。ですから、よほど大型のコンピューターでないと間に合いません。それでアメリカのコンピューターを動かして何時間後には計算をして入ってくるという形になっています。

時計屋さんも今までは修理をしながら売ってれば商売になりました。でもだんだん時計をなおす人がなくなり、時計も安くなりました。

お風呂屋さんもお客が減ってきた。五

年前には全国で二万一千軒あったのが、五年間で九千軒つぶれました。杉並のある風呂やさんは、一日に千人は入っていたのが五年間で五百人になってしまっただけ。建物が古くなくても新しく出来ないし、重油も高くなっています。

ある時セブイレブンの前にたくさん人がいた。自分の所にくる人にも似ている。それでセブイレブンの店の上に風呂を建てようと考えた。体を洗っている間に下着を洗うコインランドリーを作り三階にはサウナもつくりました。そして自分もセブイレブンの店長としてやっています。十時から二時の風呂のあいっている間に老人を招待するとか、カラオケ大会など行うことを考えました。

近頃の学校暴力は内風呂に一人で入るのでは全体のが考えられない。体操の時間を少しきりあげて全員が風呂に入るといい等とレポートして、お風呂やさんを立派に立直した人がいます。

そういうことで、このビルを建てた岩谷産業というビル会社は、全国に「お風呂やさん、建て直し、リフレッシュいたしますよ。」と行って広告を出しています。そんなふうに分業の仕事をたてなおし、セブイレブンのようなものが印刷業にもないか、いろいろ考えてみなくてはいいけない。

例えば、今さかんにオフィスオートメーションと騒いでいます。即ち事務所関係合理化しようというところで、この十

### 三菱製紙特約店

株式会社 三和洋紙店

本社 東京都中央区入船3丁目4番1号  
電話 東京 (552) 2731番(代表)

### 印刷製本が支える 組合給食

事業主と従業員の栄養源  
健康を守る

## 給食センター

中央厚生事業協同組合(551)4909

理事長 清水栄之助  
◎ご利用をお待ちして居ます

年間で合理化してものすごく生産性をあげたものに農業があります。二倍ぐらいのアップになっています。工業もずい分生産性をあげました。有難いことに、印刷業の方はあまり合理化が行われていないので、これからやる必要があります。オフイスというのは十年前とあまり変わっていない。日本の国がこれまで高度成長をしてきたので、今GNPが六十七兆アップしてきたが、これから急になくなっていったら大変なことです。借金してきますから、常に来年もさらい年も六割の年収をあげていかなければいけない。その時に何であげていくかという、生産性の向上であげようという。工業や農業ではあげられないです。そうしますと、残っているのはオフイスです。オフイスで生産性をあげて六割のアップをしていかなければ日本の国はだめです。それで、どの企業もオフイスオートメーションをやろうと一生懸命になっていきます。オフイスというのは、情報を伝え、ストックし、また伝えるのが仕事です。情報革命ということで、コンピュータとか電子タイプライターなどを使い、カタカナを打っていた機械に漢字だよという、漢字になおってブラウン管の上に出てくる。訂正しようと思えば訂正出来る。ブラウン管に出てくれば、終ればタイプライターで自動的に打って、行そろえ、カッコなど文章が組体裁に整って出てくるわけです。今までは文章を組む問

題は印刷屋があたり、印刷の仕事は印刷会社にまかせていけばよかった。それがどうやら誰でもやってしまおうということになってきた。コンピュータが入っていますから出来ません。オフイスで文章を作ってしまう。例えば電気屋さんの文章はよかったから、あれを八百屋さんに企画しよう、記憶装置に自分の作った文章を入れておけばいつでもブラウン管に出せ、ここを訂正して出せば違う文章が出てくるというわけで、オフイスはずい分合理化されます。それが出来ると各部署に情報を送るのにファクシミリで各階に出てきます。印刷して各部に配る時間、印刷屋が持つてくる時間などがいらなくなってきました。いろいろなことを改良するものが出てきたということ。オフイスオートメーションにしないでほならないと、東芝、ナショナル、日本電気などいろんな会社が懸命になってやっています。文章を作る問題は印刷屋から離れてしまった。

例えば電々公社などは世界的に研究費をかけています。日本は一社でもっているが、アメリカでは民間で各種類持っています。NHKは莫大な情報の役割を果しています。手で書けばそのままブラウン管に活字となって出てくるものがあります。ある電気メーカーにいきますと、今カタカナで打っていたものが、漢字だよと言うと漢字になって出てくる。その機械を見ると、ボタンが二つしかついていないので、文字を読んで文字が出てきます。今その数は一分間に六十音です。今年以内に百音になるといいます。私たちが話しているのは百五十音です。今までは言葉を理解させていた、音ではやっていなかった。それが音でやっている。こうしたものが今年の暮には出てくるのです。値段はつけられないが、二千万円ぐらいだろうといっています。

そうなるかと私が考えたんですが、千葉の景色のよい空気のよい所にマンションを立て、身体障害者に住んでもらって、通勤しないで仕事をやらせてもらおう。身体障害者に仕事を与えると補助金が出ます。そしてテーブルコーダーに読んでもらいます。それを機械にかけますと文字になって出てきます。高齢化社会をむかえています。空気のよい所にマンションをたて、高齢者の方に住んでもらい、本を読んでもらう。三、四年後にはこんなことが出てくることは確かです。国家的に必要で、みんなが金をかけている。皆様が考えているより早く、いろんな物が整ってくるのは確かです。

オフイスオートメーションの合理化も進んでいます。すでに東京電力や味の素などはやっています。オフイスオートメーションで何をするかという、今まではあった文書をもう一度見直そうではないか、必要なものも不必要なものもあるだろう。それを整理したら半分ほどになっちゃったといっています。そういうこと

紙の心をお届けする

# HAGA

HAGA PAPER CO., LTD.

株式会社 芳賀洋紙店

本社 / 東京都中央区新川1-25-7  
〒104 Tel. 03 (552) 9251 (大代)

杉並・仙台・高崎・名古屋・大阪・福岡

名は刺 刺き 業界のトップメーカーで  
はが ード 全国で一番よく使われている!  
封 筒  
カレンダ

TRADE MARK

## ハート株式会社

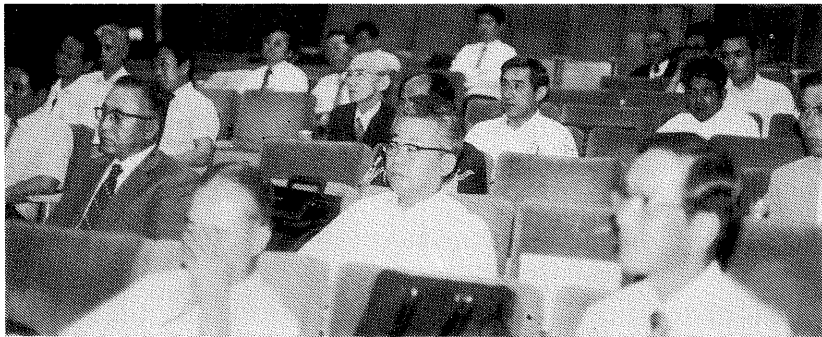
東京東支店	135 東京都江東区冬木15番10号 電話(03) 641-1153番
東京西支店	166 東京都杉並区高円寺南2丁目37番4号 電話(03)316-2151代表-4番
東京南支店	140 東京都品川区東品川3丁目26番4号 電話(03)450-1911代表-4番
東京北支店	112 東京都文京区水道2丁目8番6号 電話(03)941-3141代表-6番

で、オフィスオートメーションはまず文書の整理から始まります。

その中で味の素という会社は、オフィスオートメーションをやるとういうことで人員整理をしたら六千人が千人、一度にいらなくなった。オフィスオートメーションは人を切っていくことが目的ではありません。あふれる情報にうまく対応して効率的に生産性をあげていくことで、それで千人の人がいらなくなったので、ある朝出勤しますと、今まではある課に入っていたのに、失業者グループの中に自分の名札がかかってあるのです。驚いてしまいます。その日から何も仕事をしなくていいわけです。それで何かあなた方は食う方法を考えなさいというのと、一つのグループはアルギンZという栄養剤の飲み物を考え、もう一つのグループは味の素のチーズを作ることを考え、もう一つのグループは味の素の印刷物を全部作ろうと考えた、失業者グループが印刷をやるうといっている。日産などもやり出そうとしている。儲からなくなると印刷でもやればいいのではありません。失業者グループが仕事を始めて、皆様に勝てるかということ。残念乍ら、ねらわれる可能性が印刷業にはあるんですね。

そんな中で例えば、東京に紅屋印刷がありますね、ここではカラーを受注したから持っていくと三割程度の手数料を返してくれる。印刷屋の下請をやっているわ

けです。そんなことで儲からないであろうと思つて調べてみますと、一人当り年間全従業員で割ってみて経常利益が二百五十万円を越えています。印刷業の全国



平均は残念ながら四十万とか五十万円とかいわれています。その五倍です。

ご存知と思いますが平河工業というのは、少数数の頁ものをやって何と一人当

り三百七十万円の経常利益をあげています。印刷業全てが紅屋さんであったり、平河さんのようでないから、勝てるであろうかと問題になる。

あるいは一時間に七千枚の両面コピーをとって、丁合をとってくれる機械が出てきますね。あるいはとう写版を徹底的に改良してきれいなものを作った。これもコンピュータを使って企画、丁合までしてしまふ機械が出てきた。

高齢者は確かに日本では増加しているので、その人たちにやってもらおうという傾向があります。

それと同じように、バントマンという会社があります。バントというのはビルを建てて貸業をします。今までは集中暖房とか冷房などをやるわけですが、それに対して集中情報センターを作ろうとしている。そこにはマイクログラ複写機から印刷機までおいてある。もちろんワープロもコンピュータもおいてあります。これからビルを建てると、どうやら情報センターのようなものを作って共通で利用しようという、いくつかの例が出てきました。

いろんな問題や変化がおこってくることは確かです。皆さんの仕事が減るとは考えられないが、仕事の流れは変わるでしょう。例えば、軽印刷の人が一番問題になってくる。そうしますとカラー化を考えるでしょうね。あるいはやめてしまうか。今まで活版が一仕事二千枚といつて

いた時に、軽印刷の人が百枚でも二百枚でも値段をつけますと、活版と軽印刷の競争が行なわれたと同じように、また違う流れが出てきます。それも印刷の中だけ印刷ではなく、もっと大きな流れが変化して出てくるでしょう。

それから販売促進代行業などが出てきました。これはあなたの会社の売れゆきをのばす会社です。

紀文のかまほ屋が別会社をつくつてやっています。いろんな会社の売れゆきをのばすようにする。ポスターも作ります。チラシも作りますと、いろんな企画をたてています。

オフィスオートメーションをすることは、余分の人がいらなくなる。例えば、今度十周年記念だから記念誌を出そうとかP R誌を出そうとする時、これまでは余分の人にやらせられたが、オートメ化するとそれが出来なくなる。そうなる専門家をお願いしようということになる。結構大きなオートメ化をした会社は、自分の所の細かい仕事はやるが、特別なことをやろうとすると、どこかに頼まなくてははいけなくなる。いろんな職業が外部に頼まれるようになる。

例えば記念誌を専門に作る会社があつてもいいわけです。企画から原稿集めで全部やるわけです。記念誌販売促進企業というのがあり、P R誌から社内報などを作らせて下さい。これを全部コンピュータに記憶させ、その中から選んで

持っていけばよい。

そんなことで、いろんな変化が起って  
きます。皆さんの所は仕事は問題になっ  
てきませんか、じよじよに流れは変わっ  
てきます。いつ変わっていくか、いろんなこ  
とが言われていますが、私は一九八七年  
頃には変わってしまったと思っています。  
一九八五年筑波で科学博覧会がありま  
す。これは情報博覧会です。それに向っ  
て、電々公社もNHKもソニーも、いろ  
んな所が研究開発しています。その後二  
年の間に非常に変化していくと思いま  
す。私はそういう予告をしているわけだ  
す。一九八七年になって何も起ってなか  
ったら、いいのかわかりませ  
んが……。印刷の仕事がなくなるかどう  
か、それは話しは別です。流れが変わ  
る、流れが変わる時に、どういうふう  
に皆さんが受け皿を作っているか。今  
まで通りに仕事をもらおうとしても変っ  
てしまっている。例えば名刺などは、カ  
ードをポトンと入れると名刺が二十枚出  
てくるものを作ろうとしている会社があ  
ります。そうすると名刺で儲けようなど  
としている所は問題になってきます。本  
当に出来るかどうか知れませんが、競争  
相手は印刷業界だけでなく、社内印刷と  
かコンピューター会社などいろんな所が  
相手になってきます。流れが変わってい  
くのに、受注だけを忙しくやっているの  
はいけない。もちろん今の受注は大切に  
しなくては行けません、受注だけを続

けていては、他にいろんな所が入って  
くる可能性もありますから、コスト的に競  
争になるかもしれません。確実に価格競  
争に入った時は倒産に向っていきます。  
今は予告で問題はないでしょうが、準備  
はしていかなくては行けない。その時に  
なって私は新しい物を売る力はないで  
は、困ってしまいます。どんな仕事でも  
捜しておく、考えなくては行けない。

先のお風呂屋さんのように、午前中は  
小学校の生徒を入れる。午後はカラオケ  
大会とか民謡大会などをやり、老人を入  
れて市役所から補助をもらう。そういう  
ことがなければ問題になるのではないで  
しょうか。

例えば大型レンジが売れないと営業マ  
ンが言った時、一人の営業マンがものす  
ごく売っていた。どこで売っていたか、  
図書館で売っていた。大型レンジが何故  
図書館で売れるか。図書館は年に一回虫  
干をします。そのためにアルバイトを使  
ってやっています。それを見て、借り出  
した本をそこにに入れてからしまうと、虫  
干をしなくてもよい、本が長持ちする  
という具合です。

印刷業のマーケットがどこにあるの  
ではないか。現にいろんな所にありま  
す。受注が忙しくてやっていないので  
す。そんなことやらなくても、今は受注  
はあるわけです。ですけれども、何か出  
来るかもわからないと思って、頭に入れ  
て歩くのと、そうでないのとでは違うわ

けです。

例えばある営業マンが鯨節屋に行った  
ら、鯨節が売れなくて印刷代が払えない  
んだよというわけです。また保険会社に  
行ったら、加入してくれた人におけるの  
に気のきいたものがないかね。何かいい  
知恵を借してくれと。その営業マン二人  
が話し合って、鯨節を細かくして「自然  
の味で長生きを」としたわけです。それ  
を保険会社に売ったんです。そして非  
常に受けて、その会社の売上げは鯨節が  
一番多かったといっています。紙に包んで持  
っていったから印刷屋も儲かったわけ  
です。なおかつ確実に保険会社と鯨節屋さ  
んは受注出来たわけです。

そんなもので何を売ったついでにいわけ  
で、頭に入れていけばどんな時にもどん  
なお客から仕事があるかもしれない。  
皆さんが一つ一つ知恵として情報として  
いかに持っているか。使えないようでは  
困るわけです。

ある靴やさんの営業マン二人が、アフ  
リカにマーケット調査に行った。A君は  
すぐに電報を打ってきて「現地人すべて  
はだし、マーケットなし」と。B君は  
「現地はだし、マーケットだらけ」と打  
ってきた。それほど同じものを見て、マ  
ーケットと感じるか感じないか。

それと、今皆さんが受注で忙しくおわ  
れていると、何となく仕事をしているよ  
うにとらえてしまう。年間一人当りの経  
常利益が五十万では、はつきりいって企

業ではない。百万以上ないと駄目だとい  
われています。利益は儲けではない。次  
の発展のための必要経費です。ある会社  
が二千万円かけて、今まで五年でしか出  
来なかった統計を三年で出来る方法を考  
えた。そして国土庁から仕事をもらっ  
た。二千万円つぎ込んで確実に仕事を得  
た。そういうことのために二千万円かけ  
ているわけです。経常利益が五十万円ぐ  
らいではそういうことは出来ないわけ  
です。出来る会社が差を付けているわけ  
です。そんなことから、どんどん下って  
いっているわけです。今のようなことでは  
だめになってしまい銀行からも借り出せ  
なくなってしまう。流れが変わって  
いく中で、自分のところが勝ちとってい  
かないといけない。

新幹線の車内販売で、ちょっと美人の  
人が「何々いりませんか。どきますね、  
買おうかどうかと思っている内に  
さあつと行ってしまおう。その後、あま  
り美人でない人がゆっくりやってくる。  
赤坊が泣いているとあやしたり、寝むっ  
ている人が落したものを拾ってあげたり  
して、ゆっくりと行く。帰りになるとよ  
くわかります。美人の方はまだ荷物が入  
っている。ゆっくり行った方はほとんど  
荷物がない。なおかつ行きに買ってもら  
った弁当の空箱を有難うございましたと  
持っている。泣いていた子が泣き止んで  
いると、よかったですねと声をかけてい  
く。同じマーケット(車内)の中で、ち

よっとした心がけて売れゆきが違ってくる。マーケティングなんていうのは、そんなものなんです。

ちよっと考えてみればマーケティングというのは結構あるんです。

今、金も結構持っていてものすごく忙しくて、ものすごく情報をほしがっているのは誰かと思ったら、それは二十五歳以上の看護婦さんです。二十五歳になるちょっと焦ります。金はあるんだけれど遊んでいられないから情報が入ってこない。そこで二十五歳以上の看護婦さんを対象に情報誌を出した人がいました。一発目から六万部売れました。これは当然の読みすぎなんです。考えている人は考えているんです。

カラフルでない曆があったんです。今日のようにカラフルな時代にくやしいと思った印刷屋がいました。そしてこんなふうにしたらどうかと、カラーで作るようにならしたわけです。カラーにしたから高いだろう、だから広告をとろうと、広告を取って印刷代をあてがっている。印刷屋の恥だとおこった人がいたから、出来たわけです。受注活動のあいまにもわかることです。

ロンドンに美容学校が十三校ありますが、その学校に日本の印刷会社の社長が手紙を出した。あなたの学校の宣伝を無料で致しましょう、その代りあなたの所の美容の作品のカラーフィルムを送って下さい。その結果出来た本で、私が見て

も面白いです。それを日本の美容師に作品の見本として売りました。二万部売れたそうです。ロンドンの次にイタリア、パリと年間に四冊出しました。二万円です。編集、企画

で原稿料なしで手紙を書いただけです。見積りをして一字いくら一頁いくらなどとやっている印刷屋と比べると、いやになつてきます。こんなべら棒な話がありますか。その社長に会つたら、ただで原稿を集めて製版して売れるものがあるとい

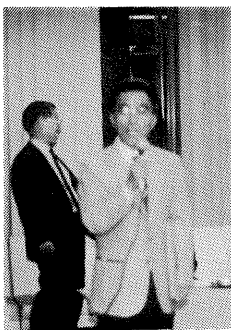
います。私は原案を三つ持っています。私がやりたいので今皆さんに教えるわけにはいきません。これが一つのパターンです。例えば、これまでお寿司屋さん

は印刷とは関係がなかったです。それをお寿司屋さんいろいろな印刷物を作らせました。神明寿司のチェーン店にいろいろな印刷物があります。そして今度はうなぎやさんの印刷をやろうとやっている所が、東京にあります。今までなかった所にアフリカのはだしの所ほどマーケティングがあります。印刷業

オートメーションにしなさい、百人ぐらの会社ではなかなか出来ない。百人ぐらの会社をいくつか集めて、私がオフィスオートメーションの胴元になりましょうと。いろんな変化がおきて、印刷を中心にしながらもいろんなことをやっていく企業がこの時代にはあらわれてくるでしょう。

### 82ドルツパ研修旅行 結団式開催

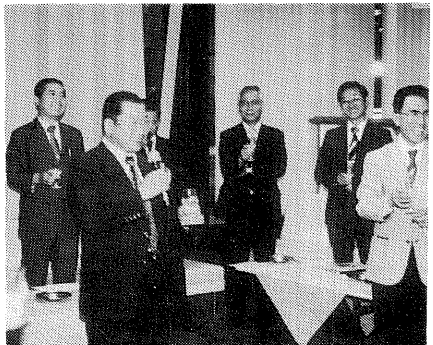
六月十六日(火) 日本橋支部、京橋支部共催の、「ドルツパ展参加旅行団」の結団式が東京エアシティターミナルで開催され、当日は両支部から合計三〇名の方々が集まりました。お揃いのユニフォームの採寸をした後、日本橋支部河北常任幹事の司会と京橋支部久保田相談役



司会は河北さん

の音頭で、旅行の成功を祈って乾杯し、お互いの親睦を深めました。

ついで旅行取扱店の楠アイ・エス・テイインターナショナルの係員の紹介が行なわれ、日程の詳しい説明がなされま



乾杯の音頭も賑やかに久保田相談役

した。今回の旅行参加人員は、申込み当初の約半分の四〇名となりましたが、丁度バス一台分なのでかえって纏まりやすくなったようです。



早くも夢はフランクフルトへ飛ぶ

# 中央区工業事業主・工業

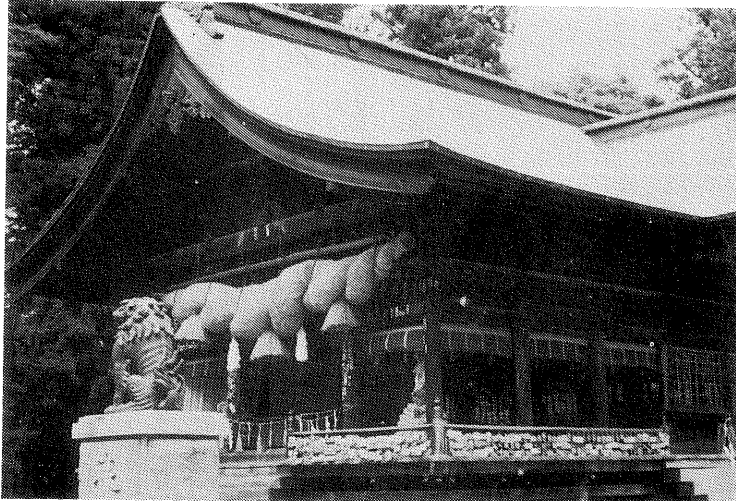
## 優良従業員宿泊研修会

毎年恒例の中央区・中央区工業団体連合会主催の一泊研修旅行が行なわれますが、今年も六月二十一日～二十二日の両日に亘って催されました。

今回は長野県諏訪郡下諏訪町が選ばれ

ました。京橋支部の参加者は五十七名の参加となり、他の団体と合わせて百三十名がバス三台に分乗して、定刻九時区役所前を出発致しました。

当二十一日は数日来の「梅雨寒む」と



いうより、三月頃の肌寒さという感じで長袖シャツを着ても少し寒い程で、その故か日曜日にも拘らず、バスは快調に中央高速道を走り続け、談合坂サービス・エリアで小休止の後、勝沼インターを出て、ぶどう棚の続く窓外を見ているうちに、少し日差しも明るくなって、この分ならば一まづホッとしました。バスは甲府市内も割合スムーズに進行して、予定時間より三十分も早く昇仙峡に到着しました。休憩所では昼食の山菜料理に舌鼓をうち、三々五々と一時間の休憩の残り時間を昇仙峡の入口附近を散策しました。強まった陽の光りに川の兩岸の新緑が美しく輝いて、巨巖の間を縫って流れる清澄

な瀑水とのコントラストに眼を楽しませてくれました。このままずっと上流まで歩いて行きたい程で、時間のないのが甚だ残念でした。

心残りの昇仙峡を後に、バスは韭崎インターから再び中央高速道へ入りましたが、車内は食後で、ウトウトとまどろむ姿も見えました。車は原生林の中を快適に進み、はるかかの雲間に見え隠れする八ヶ岳連峰の山なみは雄大で、中央道随一の見所でした。なだらかな勾配の長い坂をのぼりつきると、またたく間に諏訪で上諏訪神社を間近に見ながら諏訪湖畔へと出ました。高島城を右窓に見ながら車は順調に進行して、諏訪大社秋宮の傍に



講演する小口昭三氏

ある今夜の宿泊先「山王閣」に到着しました。たいした交通の渋滞もなかったせいか、予定より約一時間も早くついたことになりました。

全員そのまま講演会場に入りましたが早く着きすぎたので、講師の到着を待つうちにも、盆地のせい少しむし暑くなって、今朝の寒さがウソのように感じられるくらいでした。

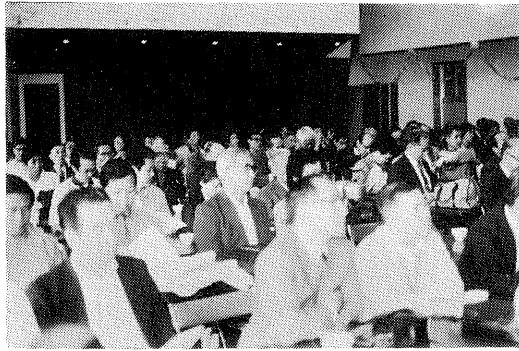
講演は、下諏訪商工会議所副会頭の小口精機株式会社社長、小口昭三氏により「諏訪市の産業について」と題して大要次の如く行なわれました。

——まず、長野県の工業出荷額三兆円の18・3%の五、二六〇億が諏訪地方(三市一町一村)の出荷額で、人口は二〇万人。また企業数は、長野県全体で一五、五〇〇社の17%にあたる二、七〇〇社を占めている。従業員数は二六万人のうちの16・7%の四三、〇〇〇人が諏訪地方で占め、長野県の中でも有数の工業地域となっている。

この諏訪地域は、戦前は生糸による製糸業が盛んであったが、戦争が始まるとともに軍需工業が盛んとなり、戦後それが転用されて平和産業である精密機械工業が盛んになった。その理由は、この地方特有の乾燥した空気が大いに精密機械工業の発展に寄与しており、東洋のスイスといわれる所以である。

大きな企業は、時計の諏訪精工舎、カメラのオリンパス、ヤシカ、オルゴール

の三協精機等々があり、これらの親企業から中小の企業が仕事を分けてもらって、現在のように多くの中小企業が発展してきた。昔、東洋バルブにいた人々が退社して、三協精機、ヤシカ、萩原製作所を創立して、時計信管等の仕事をして今日に至ったもので、私もその一人で、時計、光学の精密部品を製造している。われわれ中小企業は殆んどが部品加工で、親企業からもらっており、納入価格



熱心に聴講するみなさん

のコストダウンを厳しく要求されて、親企業のお安全の役割を果している。合理化、省力化に毎月、毎年のように心掛けています。私の会社も機械は毎年のように更新して、現在、自動機械化、ロボット化して二四時間フル操業で機械は動いており、日曜も機械だけは働いている。

諏訪精工舎などは正月三日間だけが休みです。

この諏訪地方は、賃金ベースが同じ長野県下でも約10%、20%も高く、また物価も高い。土地も限られた所に密集しているのが高く、安い労働力や土地を求めて、最近では精工舎が伊那へ、チノンが飯田市へと進出している。この下諏訪地帯には精密工業が多く、二六、五〇〇人の従業員がおり、私の会社も一〇〇名いるが、毎年新規学卒者が県外に流出したりで、県内では高い賃金にも拘らずなかなか集まらなくなっている。時計、カメラ、オルゴール、光学機器等を生産するのに、県内の五カ所の試験場が大いに活用されている。

八十年代は時代のテンポが早くなっており、われわれも勉強不足ながらも世代の交代や後継者問題、人の教育等々に真剣に取り組んでいかなければたいへんなことになる。今迄は企業競争であったがこれからは、勝つか負けるかの企業の淘汰の時代に入ってきた。

聴講者の中小企業者としての共感の拍子の続くなかを、白橋工団連会長は立上り、壇上の講師に対して

——只今のお話しを承って、業種こそ違わけれども、私どもにとってもこれらを考え合わせ、身のひきしまる思いでございませう。たいへん参考になり誠に有難うございました。——とお礼の言葉を述べ、一時間に亘る講演も終了それぞれ

部屋に引揚げ休息となりました。

懇親会は六時からということで、それ迄のんびりと温泉につかったり、ホテル横にある諏訪大社に参拝し、境内の大本を眺めたり、古い土蔵や、格子窓の近くの民家の軒なみを見て、下諏訪の落ち着いた佇まいを觀賞したりして、久しぶりに暢びりとした気分になりました。

懇親会はさき程の会議室で、畳が敷かれ一三〇名が一堂に会して宴会となり、中央区深沢商工課長以下係員の自己紹介の後、白橋工団連会長の挨拶があり、続いて宝田副会長の首頭で乾杯となり、地元「椿舞踊会」の女装の伶人？による抱腹絶倒の舞踊などの演芸を楽しんだ。その後、参加各団体の中から自慢の芸が披露され、楽しいひとときを過ごし

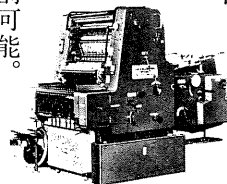


白洲サントリー工場見学

## ハイデル情報

ハイデル単色Mオフセット機  
菊半裁判 四八〇×六五〇㎜  
最高速度八千  
毎時。ナン

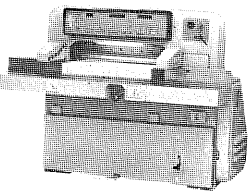
バリング、  
刷り込み、  
ミシン目  
入れ、二分割可能。



## ポラー情報

ポラー九二EMC断裁機。  
最大断裁幅九二cm

マイクロ  
ンピュータ  
搭載の新高  
速断裁機。  
積紙高±  
cm  
重量一八〇kg



## 印刷機械貿易株式会社

香里本社 大阪府寝屋川市豊里町一四  
電話〇七二〇・三二一・〇四四一  
東京事業部 東京都品川区南大井三二一四一  
電話〇三二七六三・四一四一

ました。中にも日本橋の平林支部長は司会役を石曾根支部長と勤めながらも定評のある「浪曲」を美声で聞かせて大童の活躍でした。

翌二十二日は朝食後、従業員の見送る中を九時出発、南アルプス駒ヶ岳を望む山梨県北巨摩郡白洲町の「サントリー白洲工場」に向い、中央高速を一路南下し約一時間で到着した。山麓の樹林地帯に造られた「森林公園工場」という感じに駐車場から工場正面にかけての自然は大切に保存育成されており、敷地面積は八十二万五千平方キロのさを持ち、野鳥の保護区バードサンクチャリーとなっております。

まず最初にウイスキー博物館で、古くからのウイスキー造りの道具等の陳列を見学したのち、二班に分かれて美人社員ガイドにより工場内に入る。綺麗な建物の中は床までピカピカに輝く清潔さでコントロールセンターに数人で勤務しているだけで人影は見えません。巨大な仕込醸造室のタンクにも作業員の姿は見当らず、蒸留室の中にもずらりと並んだ24基の蒸留釜(ポット・スチル)の偉容に吃驚し、工場内にたちこめるアルコールの匂いに酔ったようになりました。山麓には二〇棟もの大きな貯蔵庫が段々畑のように並び、世界一の規模を誇っています。ちなみに関東・中部地区に出荷されているミネラル・ウォーターはここで生産され、駒ヶ岳から流れ湧出する冷水が

詰められているそうで、良質の名水とのことでした。

約一時間の見学も終り再びバスに乗って甲州街道を甲府へと向ったが、この一般道も車が少なく、左に韭崎の大断層の壁を見ながら快調に進み、甲府のドライブイン「宝石会館」に到着しました。

各種の原石の研磨作業を見学した後昼食となり、お土産に各自に小さな石が贈られましたが、これもなかなかの商売上手で、一階の販売所にはとこ狭ろしと指環、ブローチ、ネクタイピン等々が並べられ、可成りの人々が財布の紐をゆるめたようでした。

店員総出で見送るなかを一時出発、少し走って、同じく甲府のワイン工場である「モンド酒造」につきました。ここは中規模の工場で、各種ワインの製造工程の説明をうけ、醸造室や、ワインの寝かせかたなどについて見学しました。

試飲室は可成り広く、数個の円テーブルの上にはウイスキーや、メロン、緑茶イチゴ入り等のワインが色とりどりに置かれており、氷も準備してあり、皆さん自由に試飲して満足そうでした。施設の見学だけだったサントリー工場とは異なり、中規模の企業だけあって流石に商売上手で、観光客をのせたバスが次々と到着します。試飲後は売店でお土産にウイスキーやワインを売りこんで、文字どおり味な宣伝をしているわけです。皆さんかなり買いこんだようでした。

ワインの利き目か、皆さん良い気持ちになり、マイクを独占してのどを自慢する人あり、ウトウトと眠りこむ人もある中に、バスは再び勝沼インターから中央高速に入り、下り坂を快調にとばし、談合坂サービスエリアで小憩の後都内まではノンストップ、三宅坂附近で少し渋滞したものの予定より一時間も早く、無事中央区役所前に到着し、有意義な一泊研修旅行の幕を閉じました。

### 新富地区・研修会 及び総会をひらく

七月三日(金)当新富地区では「松志満」において昭和五十五年度総会を開催した。

これに先だち、会員日刊スポーツ印刷社さんのご厚意により、午後四時より築地の日刊スポーツ新聞社におけるコールドタイプシステムによる新聞づくりの現状と、展望について研修させていただきました。

総会にお招きした石曾根支部長、地区会会員全員の参加を得て、誠に有意義な見学会をもつことができました。紙上をお借りして日刊スポーツ印刷社の二瓶局長、片岡部長に厚く御礼を申しあげます。第である。

(P5) (P8)に掲載・編集部

## 対話へのかけ橋

1枚の封筒にも  
大きな使命が  
かせられています。



# 山口封筒

本社 〒104 東京都中央区八丁堀2-2-7 電話(551)1151(代)  
工場 〒132 東京都江戸川区西端江4-21 電話(652)7721(代)





# ブームを追って 民謡 (2)



大東印刷工芸株式会社

岡野 滝雄

民謡にはこぶしがある。小節と書き、民謡・歌謡曲などで、譜には表わせないような微妙な節回しをいう、とある。

戦前の歌謡曲は記憶によれば、おおよそ歌の節回しがストリートで、今のようなどびブラートを利かせて歌うようなものはなかった。吹奏楽器でいうトレモロである。同じ吹奏楽器でも日本の尺八のピブラートは全く異彩である。首を振りな

がら奏でられる旋律は、その音色とともに日本人の心の琴線をふるわせるに十分である。低いところから高いところまで、実に譜調の変化に富んでいる。

小節というものが実はこのところにあるので、民謡が民謡であるためのメモディの基本となっている。だからこの小節が適切に入れられる歌い手は上手で、そうでない人はだめということになる。こぶしが民謡の生命といっても過言ではない。ある有名な女流浪曲家が次のようにいっている。「こぶしはうまく真似ようとしてもだめです。これは生来の素質で、これがあって始めて一流と言われるようになるものです。関西のこの先生の言葉には重みがある。一流となるには何ごとによらず、努力だけではだめで素質を強調しているところに感心する。

さて、こぶしがほんとうに理解されるには次のような説明が加えられなければならない。

こぶしというのは今唄っている節か

ら、次の節に移るときの間合のことで、あたかも砂浜の樹陰をかくくぐる松風のごとくそこには高から低へ、低から高へと微妙に強弱をつけながら次の節を修飾することだという。だから西洋音楽の譜でこれを書かずとすれば、無限の修飾音譜が必要となり、しかもそれは歌い手によって変えられる性格のものだから、これはもうただ上手な人の声を聴いて、耳だけで覚えるほかに手段はない。

それゆえに民謡をはじめ、日本の歌謡・楽器には楽譜はない。たとえあってもそれはそれぞれ独自の記号でしかなく、西洋音楽の楽譜のような整然としたものはない。

こぶしというものが民謡の基となることには何ら異存のないところだが、しかしこれは我が国だけの特殊な傾向にとどまるのであろうか。もっとほかの民族にもあるもののだろうか、という疑問が次におこってくる。そこで我が国で著名なフルート奏者、吉田雅夫先生の談話を次に紹介したい。

騎馬民族のジングスカンがハンガリーに遠征したとき、被征服民族であるハンガリーには美しい大らかさと哀調を多分に秘めた一つの音楽があった。それを「チュンメ」の曲という。勇猛をはせたおおかたの部下たちは、この音楽と住み心地の良さとともに時ならずして被征服者と同化してしまった。ハンガリーの人たちだけが持っていたこの曲に、征服す

## △トウのビジネス封筒 名刺・カード・はがき

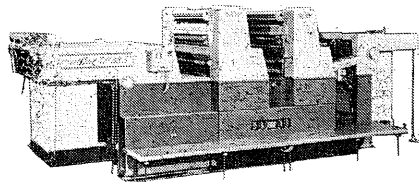
- 営業品目
- 事務用和洋封筒
  - 名刺用 紙き
  - 私製はがき
  - 招待状カード
  - マド付封筒
  - ROMD封筒
  - DM用封筒

## 株式会社 △トウ エニパック

- 本社 東京都江東区永代1-2-1 電話(642)1141(代表)
- 配達センター 東京都江東区永代1-1-7 電話(643)3237(代表)
- 支店 城南(727)4141 本郷(643)7461 城西(994)5151 浅草(643)7851
- 栃木工場 栃木県下都賀郡野木町友沼 電話02805(5)2100(代表)

## 新鋭機設置…プリント界をリードする技術!

### ●ミラーTP-38S(菊全2色刷両面兼用機)



既設機種/小森四六半載・エクセル1色機/菊全ニューコニー2色機

## 松川印刷株式会社

〒104 中央区湊1-12-5 ☎553-0831(代)

ることだけが生きがいの騎馬民族がいかに驚嘆の心で受けとめたか、また今までに知ることのなかった想像を超えた音楽の世界がそこにあったのかも知れない。

さて、このチュンメの曲であるが、どうも曲はいつかどこかで耳にしたメロディであるのだが、と先生は思ったそうである。これをよくよく考えてみるにおよんで、先生は気がついた「江差追分」に似ている、否それ自身とさえ感じたそうである。まさしくそれは追分なりと。

追分とは山に深く係わる長野の宿場、追分地方に発生した馬子唄のことである。この馬子唄が山を降りて宝暦年間、越後、三河あたりの豪商が北海道の、にしん漁で当って江差に豪商王国を築き盛華のさなかに追分のメロディが一大流行した。これが「江差追分」である。にしんの漁場は大正二年に終焉したが、「信濃の追分」を元唄として江差追分が現在でも王者の風格と格調をもって受けつがれている。舟、山を登るのとえはあるが、陽に焼けたほほかむりの馬子が同じ赤銅色の海辺の漁夫にとつて変えられた例はすこぶるめずらしい。このあたりに民謡の秘めたる謎の一端がのぞいているのかもしれない。遊牧民族の元ハンガリーの旋律がどういふわけか信濃の宿場追分に座り込んで土着してしまつたと言えないだろうか。当時海外に盛んに進出していた船乗りたちを考え合わせると可能

性の無いこととは思えない。とりわけ小節の繊維さとブレイスを要する追分のメロディは尺八と置きかえてこれをフルートで奏したら粹ではないだろうか、きつと合うと思う。

ドップラーの「ハンガリー田園幻想曲」の旋律のなかには、ふんだんに日本の古い唄や民謡が入っていることに吉田先生は驚かされたとも語っている。

私見ではあるけれどもこのような見方からしてみれば、ウガンダの単調なリズムの繰返しの中にも遠い昔の鼓の感興が湧きあがってくるし、ガーナの民族楽器の打ちならす音色が日本の祭太鼓に瓜二つともいえるほど良く似ていて、NHKのアナウンス氏のナレーションがなければ村なかの祭囃子と同一である。また、スーダンの小笛がなんと鎮守の森の祭ばやしと瓜二つであることに愕然とする。

若い人たちのグループの中でもそのユニークさで耳目を集めている鬼太鼓(おんでこ)座の人々が、大太鼓を中心に海外に進出しているようだけれども、たいへんよいことだと思ふ。このグループの太鼓のダイナミック性と三味線の大合奏を聴いたことがあるけれども、ほんとうに心打たれるものがあつた。まさしく圧巻である。

民謡はどれをとりあげてもみな良いものばかりではあるが、次城大洗の磯浜から起こつた舟唄、「磯節」も大らかさがあつて美しい。また民謡といえこれと

いうほど有名な越後の柏崎、佐渡相川の二上り調子の「佐渡おけさ」があるが、その本来の踊り手は男衆である。

いつの日にかこの砂浜で踊る姿をカメラにおさめんものと思うが今だに果たせずにいる。

民謡には甚句というのがあり、米山甚句、越後甚句、博多甚句などが知られている。甚句(じんく)とは地の句の意で、歌詞が七七七五の四句から成る盆踊歌である。この七七七五の歌詞は覚えやすく、日本的な句の代表ともなっている。磯節の先行詞「磯で名所は大洗様よ、松が見えますほのぼのと」これなども一に七七七五をふんだものである。

まだいろいろと記したいことも多いが、民謡の国内発掘作業も始まつたばかりで、まだまだ、すぐれたものが埋もれているにちがいない。また、民謡というものをも多國との対比法により、そこに共通点や源流といったものも合わせて研究したならばさらに興味もつきないものとなる。

おわりにこの文章を書くに当たつてアドバイスをいただいた柳田、高荷両先輩に厚くお礼を申し上げます。また、NHK「音楽の広場」などを参照しました。放送ですから、聴き違いもあるかと思いますが、どうぞご了承下さい。

(つづく)

生産性の「拡大」に

「コニースーパーテン」がお応えします。

毎時 1 万枚の超高速菊全判オフセット印刷機 2・4・5 色機



小森印刷機械株式会社

本社 東京都墨田区吾妻橋 3 丁目 11 番 1 号 130 東京 (624)7161 番(大代表)

△新川地区行事報告△

朝日新聞社

見学記

金山印刷株式会社

小林 一夫

みなさんも一度は新聞社の見学をなさったことがあることと思います。

今回、はからずも新川地区によるコンピュータ見学会に参加し、朝日新聞新社屋ならびに新しい編集・組版システム(ネルソン)というニックネームで呼ばれています)を見学する機会に恵まれ、酷暑の七月十七日、京橋支部新川地区のみなさんと築地にある朝日新聞本社を訪れました。

昔懐かしい円筒型の鉛版が時代の変遷を物語るように陳列されていました。従来の新聞社の文撰と植字大組み組版と凸輪のイメージとの一番の違いは、何といてもおびただしい数のモニターテレビです。

すべてのナマ原稿がコンピュータに記憶され、オペレーターのキーひとつで自由自在に文字が画面に写し出されてきます。

編集も然り、テレビ画面にレイアウト

が次々に写し出され、操作棒で天地左右自由自在に移動・追加・削除が出来、すぐプリンターで原寸大のゲラ刷が出てきます。

版下も写真もひとつとして印字されて出てくるものではありません。全部モニターテレビに写し出され、コンピュータに記憶され、最後はネガになって出てきます。

今まで印刷工程の中で一番遅れていた版下部門が、われわれの見ている前でもとも簡単に一つの流れとして出来上っているのです。そのネガが全国各支社にファクシミリで電送され、瞬時に同じネガ原稿が地方に届くわけです。

緊急を要するニュースは他社より三十分以上早く出来ると豪語するのもうなずけます。

整然とした仕事の流れ、完全分業された作業場、われわれのバタバタしている職場とは月とスッポン程の違いです。

昭和三十年代の頃プロジェクトチームを組みIBMとの協力を得、昭和四十九年試作機が出来現在まで約二十年の歳月が過ぎてます。約六ヶ月間の研修訓練で活字からネルソン方式に変えてしまった大企業の力、それ相当の費用がかかったことだろうと余計なことまで考えずにはいられません。

これだけのコンピュータを駆使しての前工程の改革は、われわれ印刷同業者として、好むと好まざるとにかかわらず

コンピュータを広く応用する時期がきていることを教えてくれています。

現にわれわれの会社の中にも印刷機、製本機械等においても、知らず知らずのうちになんげつコンピュータ記憶装置が取り入れられています。

印刷工程のネックといわれていますが、植版下の工程においても、コンピュータをフルに活用した作業が出来のもの間近いかも知れません。

新聞社のように自社の思い通りの編集が出来企業には、それ相当の効果を発揮出来るでしょうが、受注生産のわれわれの分野ではどの位まで設備投資をかけて取り組むか、また一社のみか、他社との協業化か、その取捨に思い悩みます。

技術革新がどんどんと進行している現在、ネルソン方式がまた最良ともいい切れません。書き原稿を読み取る方式や音声で文字に変える研究もなされていると聞き及びます。と言っついでついででも手をこまねいていたのでは完全に時流に遅れてしまうのは明白です。さあどうしましょう?

見学コースの最後に新聞記者室を廻りましたが、各セクションに積み上げられた書類と原稿の山、雑然とした机の上、思い思いのポーズで構想を練っている記者諸氏の心なしか虚無的な表情、そこに新聞社の一端を感じ思わず微笑んだのは私一人でしょうか。

引き続き行なわれた納涼会を兼ねた反省

写植のことなら何でも…

- 各種写真植字機
- 写真植字文字盤
- オペレーターの養成(写植スクール)
- 版下マンの養成(フィニッシュワークスクール)

株式会社 **モリサワ**

東京支店 東京都新宿区下宮比町15-5 〒162 ☎03-267-1231



**十條製紙**

〒100 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)  
TEL.東京(03)211-7311



会でも、見学会での興奮がさめぬかのようにならないうちに、どこまで進むか知れない無気味なコンピュータ議論に花が咲き、口角泡を飛ばした光景も珍らしいことでした。

やがて夜のどばりがおり初めた銀座の町をあとに充実した一日を思い浮かべながら家路に向いました。

### 第18回軽印刷展開催

「第18回伸びゆく軽印刷展」が七月十日から三日間、晴海の東京国際貿易センターで開催された。

連日多勢の人が参観につめかけ、東京

駅からの無料バスがピストン運行でさばっていた。館内は連日の猛暑でむし暑く汗だくになって二つの展示館を団扇片手の見学であつた。

展示機械は今日はやりのOA関連の機器を初め、大小さまざまな印刷機や写植機のオンパレードで、特にワードプロセッサーの前は人でいっぱいであつた。

軽印刷業界の説明パネルコーナーを除いて、あとはすべて機械業者の展示コーナーでうめられており、これでは軽印刷にどんな新規参入してくださいたとばかり一般企業に呼びかけているようで、果して軽印刷業者にとつて喜ばしいことなのかどうかと複雑な感じであつた。

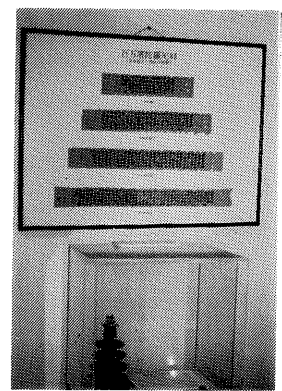
### 水野プリンティング

### コレクションライブ

### ラリー完工

印刷関係の貴重な資料のコレクションを蒐集している水野写真工芸印刷所社長水野雅生氏のマンションビルが入船の会社の前に建築されていましたが、さき頃竣工した。

この度、同ビル二階の一室に同氏がかねて集めていたコレクションの常時展示室が完成し、25日関係者に公開されました。「京橋の印刷」のシリーズで紹介したものを含め、いろいろと珍しいものが同氏により紹介され、来場の人々が興味深く見入っていました。



またこれとは別に自宅には、ゴルフ関係の洋書、和書も多数蒐集されており熱心なマニアと拝見しました。

## 文部の動き

7月3日 新富地区総会開催、於松志

満、石曾根支部長出席。日刊スポーツ新聞社工場も見学する。

7月8日 部長会、地区長会開催、於支部会議室、紙の値上げ対策等について対策を協議する。

7月9日 工団連理事會開催、於中央区役所。石曾根支部長他出席。

7月21日 京橋電気安全協会総会開催、於、新橋センター、坂田副支部長出席。

7月23日 本部理事会開催、於印刷会館7階、支部長、各理事出席して印刷文化展等の協議を行う。

7月27日 全印健組合開催、於健保会館、久保田、石曾根新理事出席。

## 編集後記

印刷業界の出荷額は昭和五十五年度で約三兆円だろうといわれているが、この程大手三社の決算によればほぼ一兆円になるという。総額の1/3である。一兆円市場といえは婦人方の装飾品である宝石業界や中央競馬会の年間売上げ額と同じである。大体年間売上げ額が二千億円から三千万円以上になると大手資本が乗り出してくるといわれている。新規参入が相次ぎ、今後印刷業界も次第に大資本による比率が増して中小零細業者の占める比率は次第に少なくなるのではなからうか。本部ではこのような中小印刷業者の経営状態の危機を広く一般業界及び官庁等に徹底するために来る九月九日(水)に九段会館にて大会を開いた後、デモンストレーションを行う。従来業界内では、いろいろな行事を催していたが他産業への訴える力が弱かった事は否めない。一昨年は同じ九段会館に於て「一般消費税反対の決起大会」を開いて関係官庁に陳情したりして、デモこそ行われなかったが、結果的に、廢案に追い込む事に成功した事は、やはり組織が結束して意志表示したのが奏効したもので、これからもどんどんこういった大会を開いて印刷業界の立場を一般の人々に理解してもらう努力をする事が印刷業界の地位向上や経営の安定にもつながるのであり多数の参加を願っています。